

点検アシスト For BT600 ユーザーズマニュアル

はじめに

このたびは、「LibMax」蔵書点検用ハンディターミナルをレンタルいただきまして、まことにありがとうございます。このマニュアルでは、ハンディターミナルの基本的な使用方法や、注意していただきたいこと、ハンディターミナルで読み取った点検データをパソコンにインポートする方法を説明しています。

ご使用になる前に、ひととおりお読みください。

ハンディターミナルを正しく安全にお使いいただくために

ハンディターミナルを正しくお使いいただくための、注意事項をまとめます。

！ご注意

- 本製品は、図書館管理システム「LibMax」専用です。ほかの製品との併用はできません。
- 付属の AC アダプタ以外は使用しないでください。
- ハンディターミナルを、分解したり、修理・改造をしないでください。
- AC アダプタからこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは、直ちに電源プラグを抜いてください。
- 電源プラグを抜くときは、ケーブルを持たず、必ずプラグの部分を持って抜いてください。
- 付属のバッテリー以外は使用しないでください。また、付属のバッテリーを本製品以外に使用しないでください。
- ハンディターミナルの液晶画面を先の尖ったものでたたいたり、ひっかいたりしないでください。
- ハンディターミナルを使用して点検作業を行う場合は、必ずハンディターミナルのストラップを手首にかけ、落下しないように気をつけてください。
落下など不注意による破損や故障の場合は、修理費用を実費にてご負担いただきますので、ご了承ください。

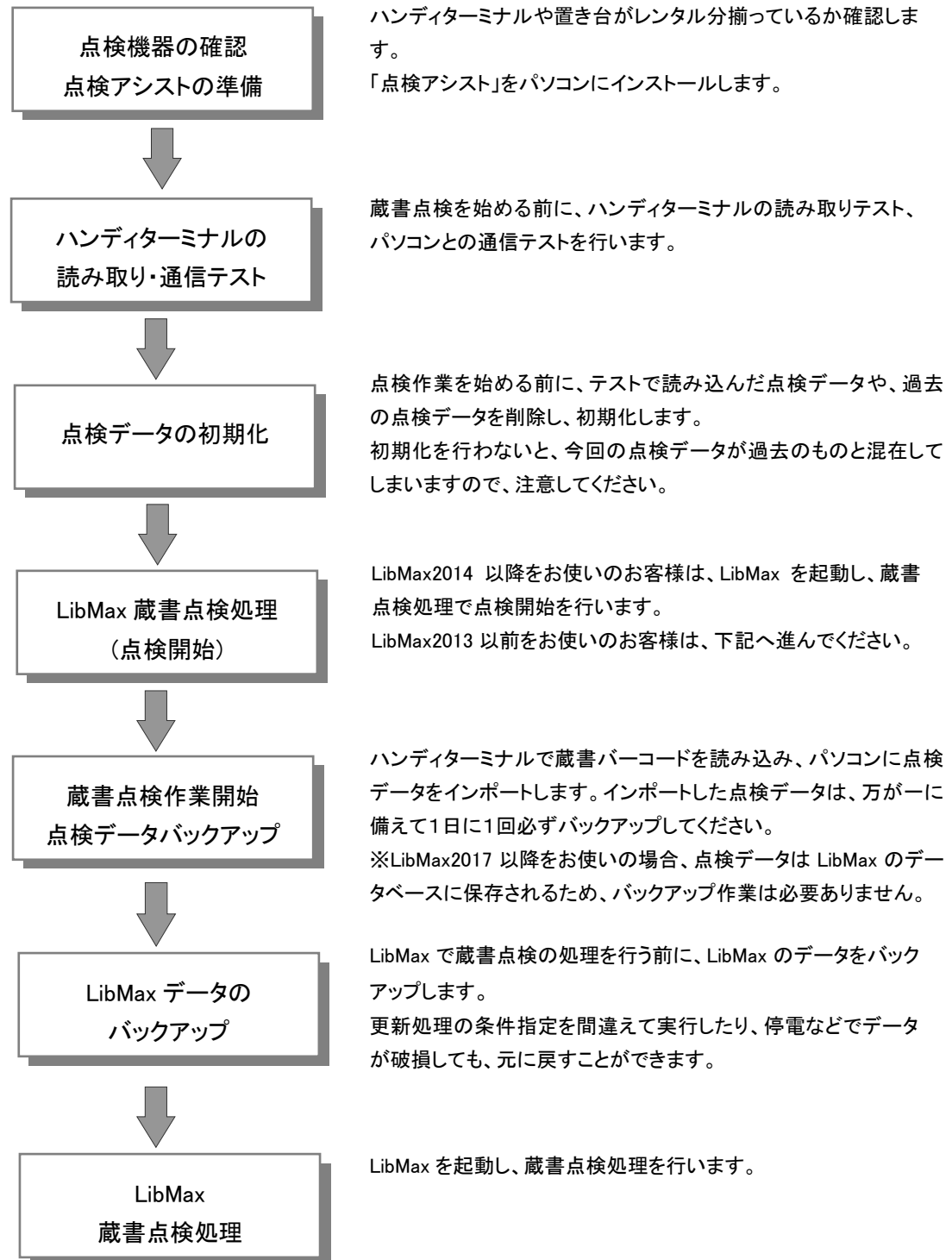


必ずストラップを
かけます。

- ハンディターミナルのレーザー照射部からは、レーザー光が発射されます。覗き込まないでください。

蔵書点検の概要

ハンディターミナルを使用して蔵書点検を行う場合の、作業の流れをまとめます。お申し込みのレンタル期間内に作業を完了させるために、テストや準備、データのバックアップを必ず行ってください。



目次

はじめに	2
ハンディターミナルを正しく安全にお使いいただくために	2
蔵書点検の概要	3

1 準備すること 6

1 点検機器の確認	6
2 各部の名称と役割	7
3 ハンディターミナルの充電	8
4 パソコンと置き台の接続	9
5 点検アシストのインストール	10

2 蔵書点検方法「LibMax2017 以降をお使いの場合」 14

1 蔵書バーコードを読み取る	14
2 通信テストを行う	15
3 点検データの初期化	17
4 ハンディターミナルを使用した、蔵書点検作業の流れ	19
5 蔵書点検作業の開始	20
6 ハンディターミナルのデータ削除	29
7 点検作業の再開	29
8 LibMax データのバックアップ	29
9 LibMax で蔵書点検を実行する	30

3 蔵書点検方法「LibMax2016 以前をお使いの場合」 31

1 蔵書バーコードを読み取る	31
2 通信テストを行う	32
3 点検データの初期化	34
4 ハンディターミナルを使用した、蔵書点検作業の流れ	37
5 蔵書点検作業の開始	38
6 インポートしたデータのバックアップ	44
7 ハンディターミナルのデータ削除	45
8 点検作業の再開	46
9 LibMax データのバックアップ	46
10 LibMax で蔵書点検を実行する	46

4 付録 47

- 1 ハンディターミナル仕様.....47
- 2 サポートのご案内.....48

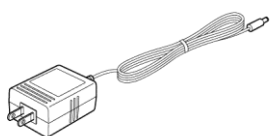
1 準備すること

1 点検機器の確認

お届けした箱には、下記のものが入っています。すべて揃っているか確認してください。万が一、不足しているもの、故障しているものがありましたら、お手数ですがソフテックサポートセンターまでご連絡ください。（サポートセンターのご案内については、〈P.48〉をお読みください。）

■レンタル台数分お送りしているもの

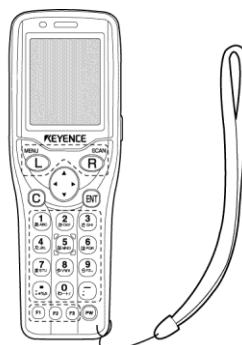
ハンディターミナル、置き台、AC アダプタは、レンタル契約している台数分お送りしています。お申し込みの台数と、お届けした台数が一致しているか確認してください。



AC アダプタ

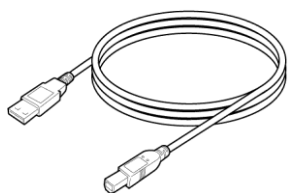


置き台



ハンディターミナル

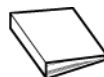
■1セットのみお送りしているもの



USB ケーブル

MEMO

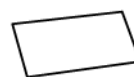
このほかに、マニュアル、点検アシスト CD-ROM、返送用伝票をお送りしています。



マニュアル



CD-ROM



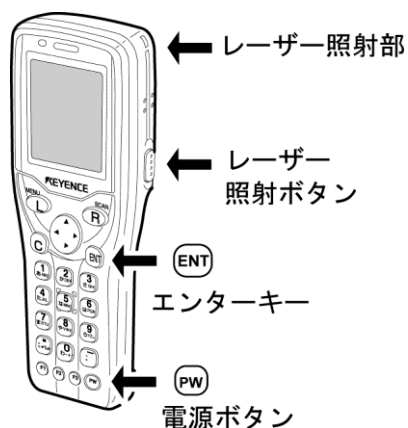
返送用伝票

2 各部の名称と役割

ハンディターミナルと置き台の、各部の名称を確認してください。

■ハンディターミナル

ハンディターミナルは、蔵書点検時に、蔵書バーコードの読み取りに使用します。読み取り後に、点検データをパソコンにインポートします。

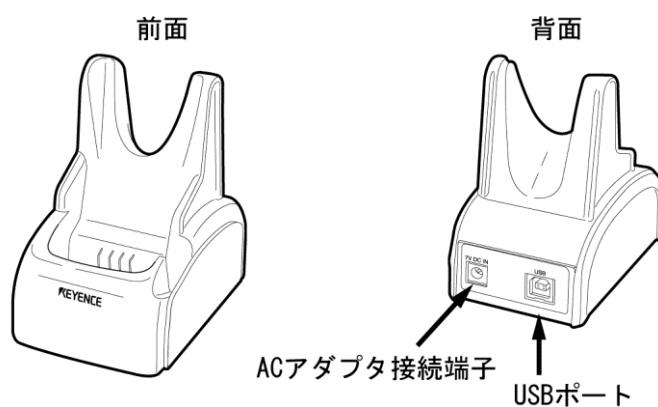


■置き台

置き台は LibMax がインストールされているパソコンに接続して、ハンディターミナルから点検データをパソコンにインポートするときに使用します。

また、ハンディターミナルの充電にも使用します。

※ 置き台が複数ある場合、点検データのインポート用に、パソコンに接続する置き台は、1台のみです。ほかの置き台は、ハンディターミナルの充電専用に使います。

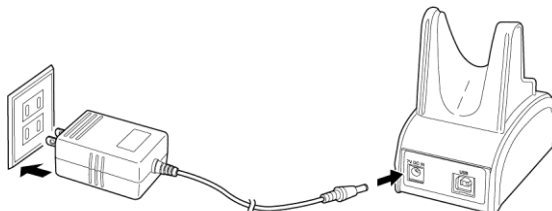


3 ハンディターミナルの充電

点検作業を行う前に、ハンディターミナルを充電する必要があります。

操作

1. 置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。



2. 置き台にハンディターミナルをセットします。
動作確認 LED が赤色に点灯し、充電中であることを表示します。

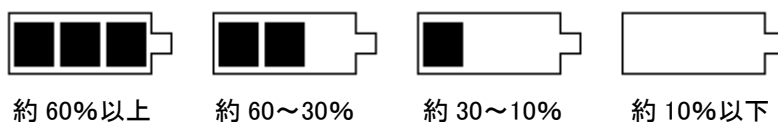


3. 充電が完了すると、動作確認 LED が緑色に切り替わります。
以上で、充電作業が完了です。
なお、バッテリーが切れても、数時間は点検データが消えることはありません。速やかに、充電を行ってください。

！ご注意 ハンディターミナルの充電は、必ずハンディターミナルを置き台に置いて、ハンディターミナルごと行ってください。

■電池残量の表示について

ハンディターミナルの液晶画面左下にある、メーターがバッテリーの残量を示しています。
残量が約 35～20%になったら、充電を行うようにしてください。



！ご注意 残量が約 10%以下になった場合、できるだけ早く充電してください。この状態で、バーコードを読んだり、パソコンにデータをインポートするとローバッテリー状態となり、動作が中断されることがあります。
※パソコンにインポート済みのデータには影響がありません。

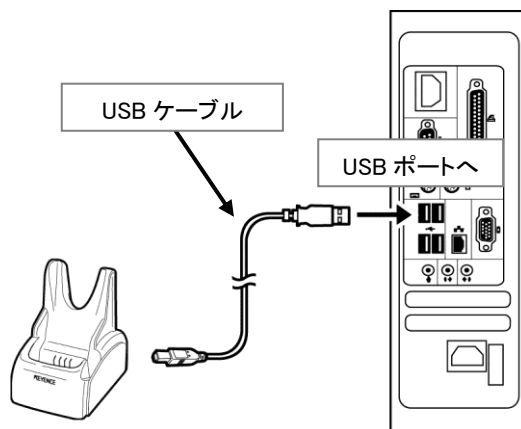
4 パソコンと置き台の接続

置き台と LibMax がインストールされているパソコンを接続します。

！ご注意 置き台が複数ある場合でも、蔵書点検用にパソコンと接続する置き台は 1 台のみです。ほかの置き台はハンディターミナルの充電専用としてお使いください。

操作

1. 置き台の「USB ポート」と USB ケーブルを接続します。
2. パソコンの USB ポートに、USB ケーブルのもう片方を接続します。



3. 置き台に AC アダプタを取り付け、電源プラグをコンセントに挿します。

5 点検アシストのインストール

ハンディターミナルからパソコンへ点検データを取り込むために、点検アシストをインストールします。この操作は、2回目以降の点検でもインストールを行ってください。

！ご注意 点検アシストは、「LibMax」がインストールされているパソコンにインストールしてください。
サーバ機、クライアント機どちらでも構いません。
置き台をパソコンに接続した状態で、インストールを行ってください。

操作

1. 添付の CD-ROM をパソコンにセットします。

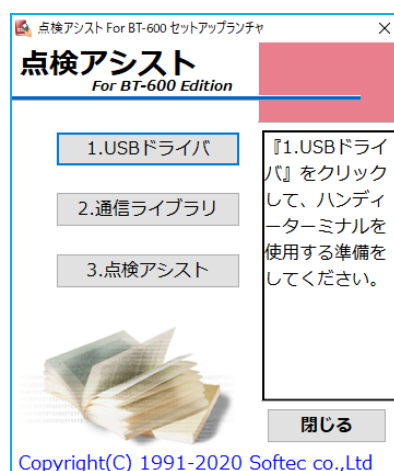
数秒後にセットアップランチャが起動し、[蔵書点検セットアップ]画面が表示されます。



※ セットアップランチャが起動しない場合は、[エクスプローラー]から CD ドライブを開いて、「InstallTenkenAssist.exe」をダブルクリックしてください。

2. [BT-600]をクリックします。

[点検アシスト For BT-600 Edition]画面が表示されます。



操作

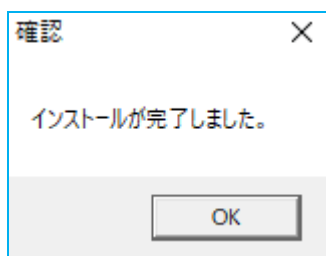
3. [USBドライバ]ボタンをクリックします。
USBドライバがインストールされます。

MEMO

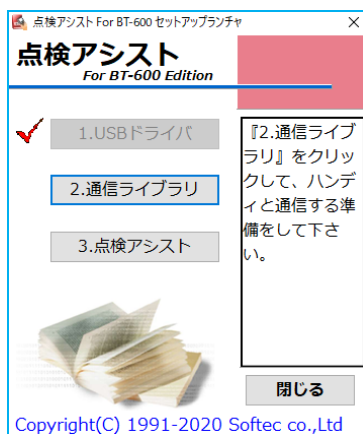
「BT-600の通信ユニットを接続してください」と表示された場合は、置き台をパソコンに接続してください。



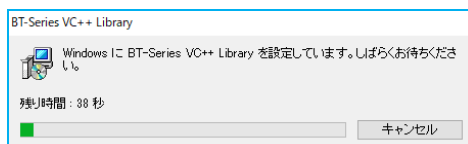
4. 「インストールが完了しました。」と表示されたら、USBドライバのインストールは完了です。



5. [OK]ボタンをクリックします。
[点検アシスト For BT-600 Edition]画面に戻ります。

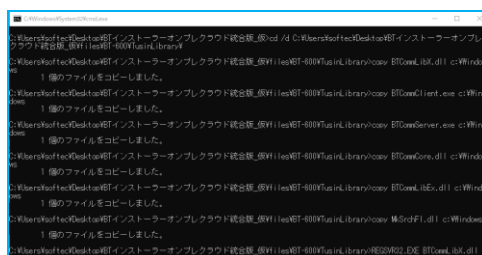


6. [通信ライブラリ]ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。

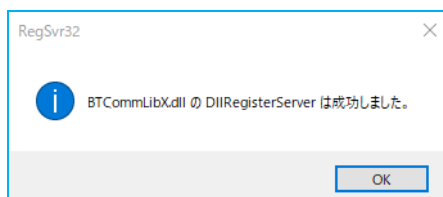


操作

7. 続いて、次の画面が表示されます。

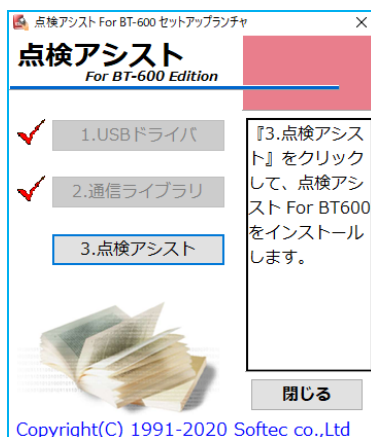


8. 下記のメッセージが表示されたら、通信ライブラリのインストールは完了です。



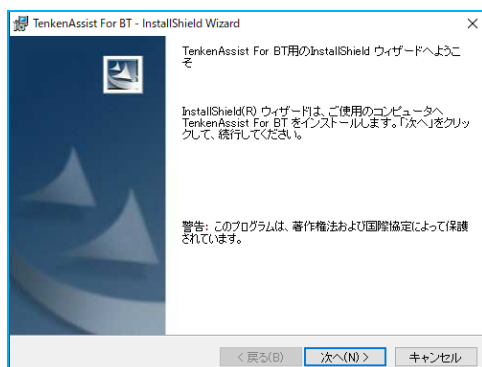
9. [OK] ボタンをクリックします。

[点検アシスト For BT-600 Edition] 画面に戻ります。



10. [点検アシスト] ボタンをクリックします。

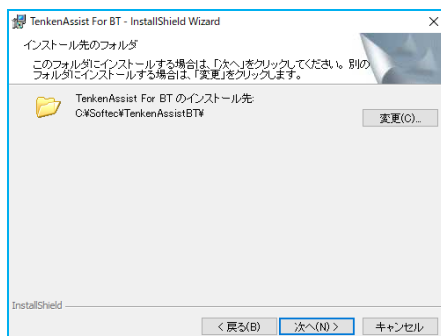
点検アシストのウィザード画面が表示されます。



操作

11. [次へ]ボタンをクリックします。

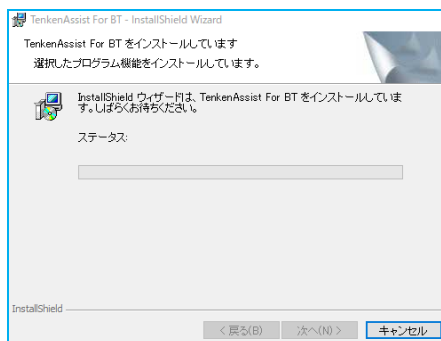
[インストール先のフォルダ]画面が表示されます。



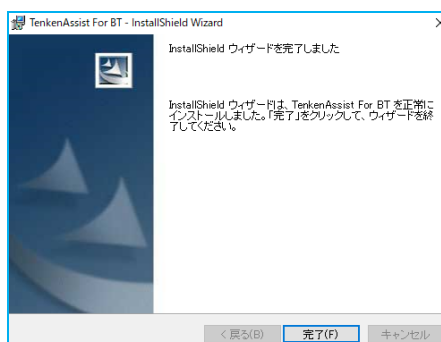
変更する必要がない場合は、このままにしておきます。インストール先のドライブやフォルダを変更したい場合は、[変更]ボタンをクリックして、インストール先を指定してください。

12. インストール先を確認したら、[次へ]ボタンをクリックします。

点検アシストのインストールが始まります。



13. 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、点検アシストのインストールは完了です。



14. [完了]ボタンをクリックします。

[点検アシスト For BT-600 Edition]画面に戻ります。

15. [閉じる]をクリックし、次の画面でも[閉じる]をクリックすると、セットアップランチャが終了します。CD-ROM をパソコンから取り出して、大切に保管してください。

※LibMax2017 以降をお使いのお客様はこのまま下記の [2 蔵書点検方法 (LibMax2017 以降をお使いの場合)]にお進みください。LibMax2016 以前をお使いのお客様は P. 31 [3 蔵書点検 (LibMax2016 以前をお使いの場合)]～へお進みください。

2 蔵書点検方法「LibMax2017 以降をお使いの場合」

蔵書点検作業を行う前に、蔵書バーコードの読み取りテストと、正しくパソコンと通信できるかをテストします。

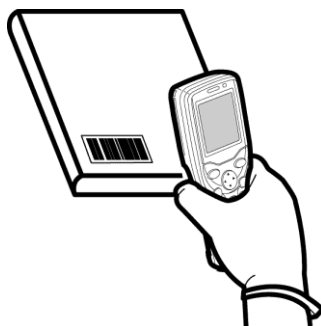
！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。



1 蔵書バーコードを読み取る

操作

1. ハンディターミナルの[PW]ボタンを押し、電源を ON にします。
ハンディターミナルの液晶画面に、[蔵書点検]画面が表示されます。
2. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、蔵書バーコードにあて、レーザー照射ボタンを押します。
ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあけ、赤いレーザーがバーコード部分にあたるようにします。



バーコードが正常に読み込まれると、緑色のランプが点灯し、「ピッ」と音がします。また、データ件数が 1 件増えます。

読み取りに失敗した場合は、赤色のランプが点灯し、「ビーッ」と音がします。「読み取れませんでした。」と表示されるので、もう一度、読み込んでみてください。

MEMO バーコードの印刷状態などが原因で、読み取りができない場合は、ハンディターミナルの数字キーから直接図書登録番号を入力することができます。



ENT [エンター] キー

- (1) バーコードラベルの登録番号を、数字ボタンで入力します。
液晶画面の「登録番号」の次の行に、入力した番号が表示されます。
入力直す場合は、[C]ボタンを押すと、直前の数字を削除できます。
- (2) 正しい登録番号を入力したら、[ENT]ボタンを押します。
「ブツ」と音がして、登録されます。

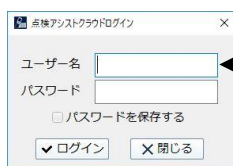
2 通信テストを行う

操作

1. [点検アシスト]を起動します。
[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[ソフテック図書館システム]→[点検アシスト For BT] または[点検アシストクラウド]を選択します。
[点検アシスト]が起動します。

◆LibMax クラウドをお使いのお客様

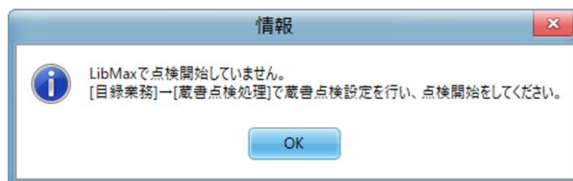
ログイン画面が表示されるので、ユーザー名とパスワードを入力して
[ログイン]をクリックします。



※[ユーザー名]、[パスワード]は LibMax
操作マニュアルに同封されている
「ソフトウェア使用許諾契約証書」に
記載されています。

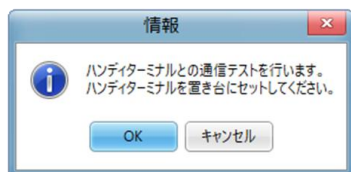


LibMax の蔵書点検処理の[点検開始]を行っていない場合は下記のメッセージが表示されます。OK をクリックして進んでください。



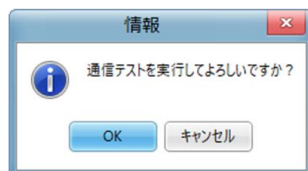
操作

- 画面左下に表示されている[通信テスト]ボタンをクリックします。
点検アシストで、次のメッセージが表示されます。

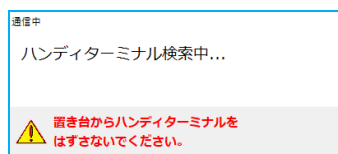


- 置き台にハンディターミナルをセットします。
正しくセットすると、動作確認 LED が点灯します。確認してください。また、念のために次のことを確認します。
① パソコンと置き台が、ケーブルで正しく接続されていますか？
② ハンディターミナルの電源が入っていますか？

- [OK]ボタンをクリックします。



- [OK]ボタンをクリックします。
点検アシストでは次の画面が表示されます。



また、ハンディターミナルの液晶画面には、「WAKEUP 通信中 C キー: 中断」と表示されます。

- 点検アシストで「通信テストが正常に完了しました。」と表示されたら、テストは完了です。
[OK]ボタンをクリックしてください。

MEMO

エラーが発生した場合

- 「ハンディターミナルの状態を確認してください」と表示されるとき

下記のことを確認してください。

- ① パソコンと置き台が正しく接続されていますか？
- ② 置き台と AC アダプタは正しく接続されていますか？
また、電源プラグはコンセントに差し込まれていますか？
- ③ ハンディターミナルの読み取りレーザーが照射されていませんか？
何かバーコードを読み取るか、しばらく待って、読み取りレーザーが消えてから、もう一度通信テストを行ってください。

3 点検データの初期化

通信テストが終了したら、テストに使用したデータを消去します。

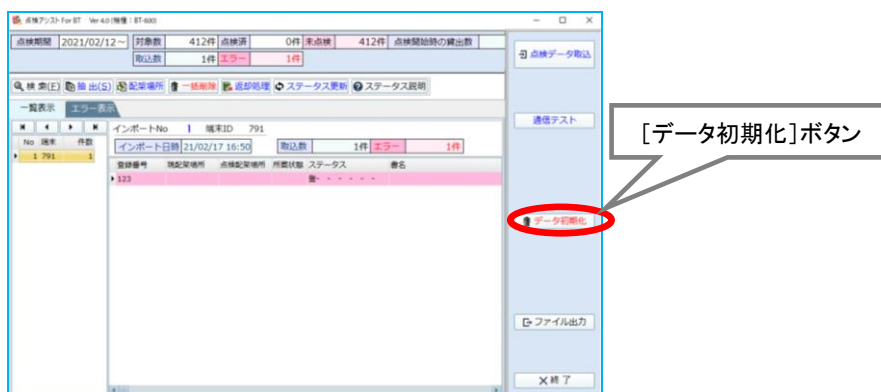
■点検アシスト

点検アシストに、前回点検時の点検データが残っていると、今回点検する点検データと混在してしまいます。このようなことがないように、本番の点検作業前に、データを消去しておきます。

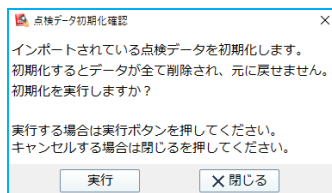
なお、データを初期化すると、復元はできません。誤って実行しないように注意してください。

操作

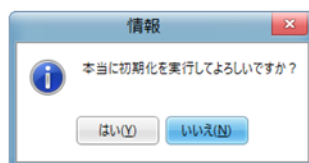
1. 点検アシストを起動します。



2. [データ初期化]ボタンをクリックします。
削除確認のメッセージが表示されます。



3. [はい] ボタンをクリックします。



4. 削除してもよいか確認し、[はい] ボタンをクリックします。



5. [OK] ボタンをクリックします。
初期化が完了します。

■ハンディターミナル

ハンディターミナルに残っている点検データを削除し、何も読み取っていない状態に戻します。なお、削除した点検データは復元できません。誤って削除しないように注意してください。

操作

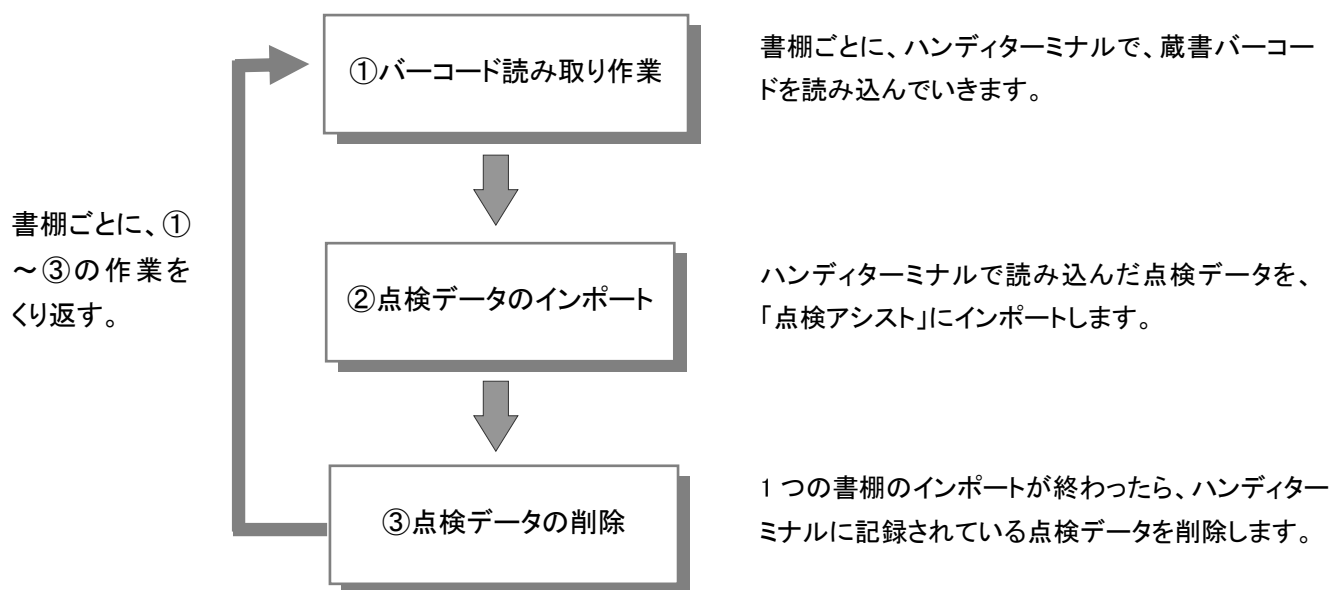
1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源を ON にします。
2. [L] (MENU) ボタンを押して、液晶画面にメインメニューを表示させます。
3. [3] ボタンを押して「3: 削除」を選択します。
4. [1] ボタンを押して「1: 蔵書点検データ」を選択します。
5. 「削除したデータは元に戻せません。データ削除しますか?」と表示されます。[1] ボタンを押して「1: YES」を選択します。
6. 「削除してよろしいですか?」と表示されます。[1] ボタンを押して「1: YES」を選択します。
7. 「削除しました 「確認」」と表示されます。[ENT] ボタンを押します。
8. メインメニューに戻ります。[1] ボタンを押して「1: 蔵書点検」を選択すると、[蔵書点検]画面に戻ります。
データ数が「0」と表示されていることを確認してください。

4 ハンディターミナルを使用した、蔵書点検作業の流れ

！ご注意 LibMax で蔵書点検の点検開始を行ってください。

バーコードの読み取りと通信テストが正しく行われたことを確認し、データの初期化が終了したら、蔵書点検の作業を開始できます。

蔵書点検の作業の流れは、次のようになります。



！ご注意 蔵書点検を開始してからは、点検アシストの初期化は行わないでください。

MEMO 一度にすべての蔵書データを取り込むことができますが、「ハンディターミナルでの読取作業」→「点検データのインポート」→「ハンディターミナルのデータ削除」のサイクルを決めて(たとえば一日ごと、半日ごと)、数回に分けて作業を繰り返すことをお勧めします。

5 蔵書点検作業の開始

ハンディターミナルを使用した蔵書点検では、配架場所を指定しない方法と指定する方法があります。

■配架場所を指定しない場合

蔵書点検時には配架場所の変更は行わず、蔵書の有無の確認のみ行います。

■配架場所を指定する場合

ハンディターミナルを使用した蔵書点検では、LibMax の配架場所を一括して更新する機能があります。下記の場合などは、配架場所を指定しながら蔵書点検を行うと便利です。

- ① LibMax を導入後、初めて蔵書点検を行う
- ② 配架場所を入力していない図書データが多数ある
- ③ 配置換えや除籍などで、異動した図書が多数ある
- ④ 実際の図書の場所と、LibMax 上の配架場所が一致しない

！ご注意

- 管理したい場所が、LibMax の[配架場所マスタ]に登録されているか確認してください。
- ハンディターミナルでの読み込み作業は、配架場所ごとに行います。
- インポートは配架場所ごとに行ってください。複数の配架場所のデータが混在しないようにします。

なお、どちらの場合も、蔵書点検を始める前に、ハンディターミナルと点検アシストで、初期化作業を行ってください。

LibMax クラウドをお使いのお客様のみ設定をお願いします

[点検アシスト]の[取込設定]ボタンをクリックします。



条件指定用のダイアログに切り替わります。各項目を設定します。

取込設定

桁設定

始桁 1

桁数 8

取込分割件数

3000 件

保存 閉じる

・桁設定

LibMax の設定に合わせて[始桁]と[桁数]を入力して[保存]ボタンをクリックします。

・取込分割件数

初回設定は 3000 件で取込してください。
インターネットの回線速度によりデータ転送が失敗する場合は 2500 件以下で取込してください。

※LibMax の設定は[設定]メニュー[環境設定／ユーザー情報]の[番号体系]から確認できます。



■ハンディターミナルの読み込み作業

！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW] ボタンを押して電源を ON にします。
液晶画面に、[蔵書点検] 画面が表示されます。
2. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、蔵書バーコードにあて、レーザー照射ボタンを押します。
ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあげ、赤いレーザーがバーコード部分にあたるようにします。
3. 蔵書点検を行う図書の蔵書バーコードを、すべて読み取ります。

MEMO

途中で読み取り作業を中断するときは、そのままハンディターミナルの電源を OFF にします。読み取ったデータはハンディターミナルに保存されています。

読み取り作業を再開する場合は、再び電源を ON にして、読み取り作業を開始します。

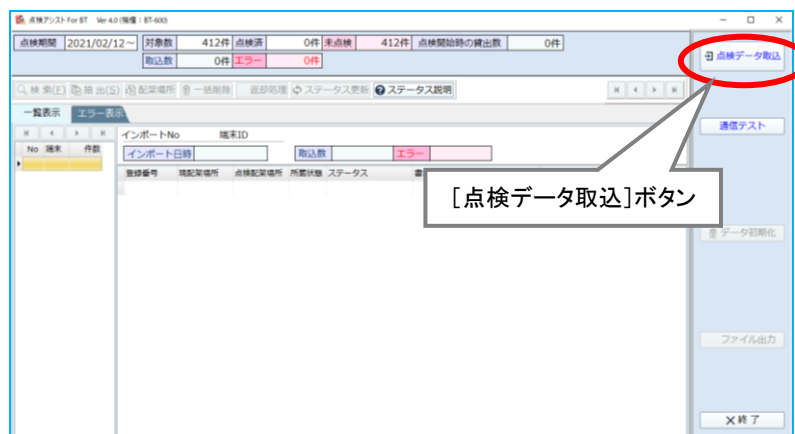
ハンディターミナルは、登録番号が 10 桁の場合、1 台で約 60 万冊分のデータを保存することができます。

■点検データのインポート

ハンディターミナルで読み取った点検データを、点検アシストにインポートします。

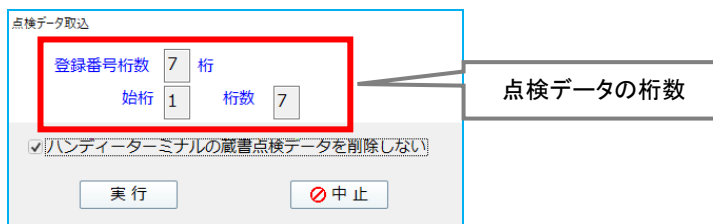
操作

1. ハンディターミナルの電源を ON にし、パソコンに接続されている置き台にセットします。
2. パソコンで、点検アシストを起動します。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [ソフテック図書システム] → [点検アシスト For BT]または[点検アシストクラウド]の順に選択すると、起動できます。



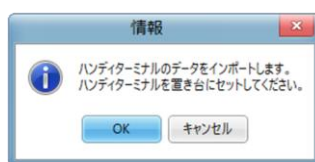
操作

3. [点検データ取込]ボタンをクリックします。
[点検データ取込]ダイアログが表示されます。

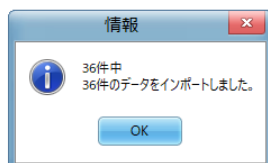


4. 点検データの桁数を確認します。
[登録番号桁数] : LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
[始桁] : LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
[桁数] : LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
5. 点検データのインポート後も、ハンディターミナルの点検データを残しておく場合は、[ハンディターミナルの蔵書点検データを削除しない]をチェックします。チェックを外すと、点検データのインポート時に点検データが削除されます。
※ 点検データは後で削除できます。操作方法は「ハンディターミナルのデータ削除」<P.29>を参照してください。

6. 必要な設定が終了したら、[実行]ボタンをクリックします。



7. ハンディターミナルが置き台に正しくセットされているか、もう一度確認して、[OK]ボタンをクリックします。
インポートが開始されます。
8. インポートが正常に終了すると、下記のメッセージが表示されます。



※インポートされたデータの件数を確認してください。

9. [OK]ボタンをクリックします。

操作

10. [点検アシスト]画面で、インポートされた点検データを確認します。

登録番号	蔵書場	点検蔵書場	所蔵状態	ステータス	書名	請求記号
00000001	蔵書	所蔵	- - - - -	貸	パリネズミは月を昇上げる	913.6-7
00000002	蔵書	所蔵	- - - - -	貸	蜜柑	913.6-7
00000003	蔵書	所蔵	- - - - -	貸	旅日記	913.6-7
00000004	蔵書	所蔵	- - - - -	-	旅行記	913.6-7
00000005	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜柑と蜜柑 上 1	913.6-4-1
00000006	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜柑と蜜柑 下 3	913.6-4-3
00000007	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜柑	913.6-4
00000008	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜柑	913.6-4
00000009	蔵書	所蔵	- - - - -	-	マンボウ船後の名推理	913.6-4
00000010	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜柑物語 前巻	913.6-4
00000011	蔵書	所蔵	- - - - -	-	武蔵野	913.6-7
00000012	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜工船 一九二八・三・一五	913.6-7
00000013	蔵書	所蔵	- - - - -	-	城の端にて、小島の神様	913.6-7
00000014	蔵書	所蔵	- - - - -	-	ひこばえ 上 1	913.6-4-1
00000015	蔵書	所蔵	- - - - -	-	ひこばえ 下 3	913.6-4-3
00000016	蔵書	所蔵	- - - - -	-	蜜とよ歌	913.6-9
00000017	蔵書	所蔵	- - - - -	-	ファーストラブ	913.6-9

■件数表示

[点検期間] : LibMax で指定した点検期間が表示されます。

[対象数] : 蔵書点検処理の対象になっている図書の数。

[点検済] : 点検データを取り込んだ図書の数と貸出中の数の合計です。

[未点検] : 点検対象のうち点検済になっていない図書の数です。

[点検開始時の貸出数] : LibMax で点検開始をしたときの貸出中の数です。

[取込数] : インポートされたデータの総合計です。

[エラー] : LibMax に登録されていない(図書データとして登録されていない)数です。

■No

インポート作業をするごとに、インポートの番号が付きます。

■図書データ

黄色く反転しているデータは、LibMax で貸し出し中になっている登録番号です。返却処理を行う場合は、「黄色く反転している点検データを LibMax で返却処理するとき」<P.27>を参照してください。

赤く反転しているデータは、LibMax に登録されていない(図書データとして登録されていない)登録番号です。

MEMO

●点検データを検索する

インポートした点検データを、登録番号で検索することができます。また、エラーレコードを指定して検索することも可能です。

(1) [検索]をクリックします。

点検アシスト For BT Ver 4.0 (機種: BT-600)

点検期間 2021/02/12~ 対象数 412件 点検済 0件 未点検 412件 点検開始時の貸出数 0件

取込数 65件 エラー 33件

検索(E) 抽出(S) 配架場所 一括削除 返却処理 ステータス更新 ステータス説明

一覧表示 エラー表示

インポートNo 1 端末ID 729

インポート日時 21/02/12 17:03 取込数 36件 エラー 4件

No	端末	件数	登録番号	現配架場所	点検配架場所	所蔵状態	ステータス	書名	請求記号
1	729	36	0000001	開架		所蔵	- - - - 貸	ハリネズミは月を見上げる	913.6-7
2	770	17	0000002	開架		所蔵	- - - - 貸	蜜柑	913.6-7



[検索]ダイアログが表示されます。

検索

検索項目

☒ 登録番号 ☐ エラーレコード

登録番号

検索 次を検索 閉じる

(2) [検索項目]の設定を行います。

登録番号：登録番号で点検データを検索します。[登録番号]入力欄に、検索する登録番号を入力してください。

エラーレコード：エラーが発生している点検データを検索します。

(3) [検索]ボタンをクリックします。

条件に該当するデータにカーソルが移動します。

MEMO

●点検データを抽出する

[一覧表示]タブの画面を表示しているときは、取り込んだ点検データを抽出することが可能です。

(1) [抽出]をクリックします。

No	端末	件数
1	729	36



[抽出]ダイアログが表示されます。

(2) 抽出の条件を設定します。

登録番号: 登録番号で点検データを抽出します。抽出する登録番号を入力してください。

インポートNo: インポートNoで点検データを抽出します。抽出する番号を入力してください。

端末ID: ハンディターミナルごとに点検データを抽出します。抽出するハンディターミナルの端末IDを入力してください。

点検時配架場所: 抽出する配架場所はチェックし、抽出しない配架場所はチェックを外します。

所蔵状態: 抽出する所蔵状態はチェックし、抽出しない所蔵状態はチェックを外します。

(3) [抽出]ボタンをクリックします。

条件に該当するデータのみが表示されます。

MEMO

●配架場所を一括して変更する

インポート No ごとに、一括して配架場所を変更することができます。

(1) [配架場所]をクリックします。

No	端末	件数
1	729	36

登録番号	現配架場所	点検配架場所	所
0000014	開架		所
0000015	開架		所



[配架場所一括変更]ダイアログが表示されます。

(2) [インポート No.]に、配架場所を変更するインポート No を入力します。

[配架場所]のリストから、変更後の配架場所を選択します。

(3) [変更]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

(4) [はい]ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを変更しました。」と表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

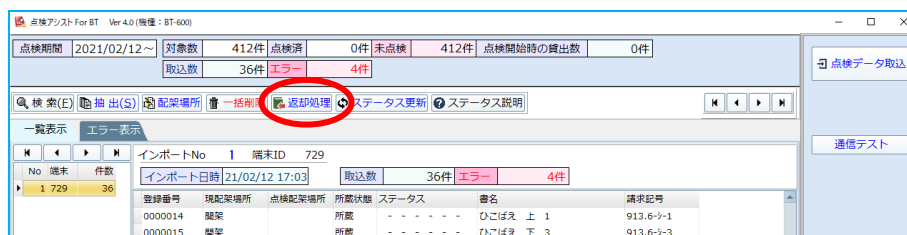
指定したインポート No の配架場所が変更されます。

なお、ここまでの操作では、LibMax の所蔵データの配架場所は変更されていません。LibMax の所蔵データの配架場所は、LibMax の蔵書点検処理で、点検データ取込を実行すると変更されます。

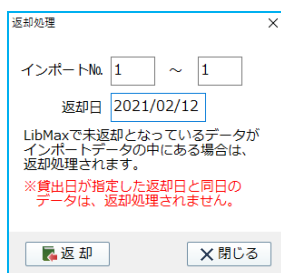
MEMO

●黄色く反転している点検データを LibMax で返却処理するとき

(1) [返却処理]をクリックします。



[返却処理]ダイアログが表示されます。

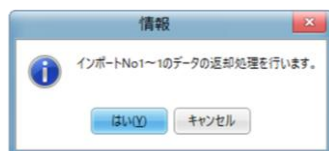


(2) [インポート No.]に、返却処理をするデータの番号を入力します。

[返却日]に、返却処理を行う日付を入力します。

(3) [返却]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。



[はい]ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを返却しました。」と表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

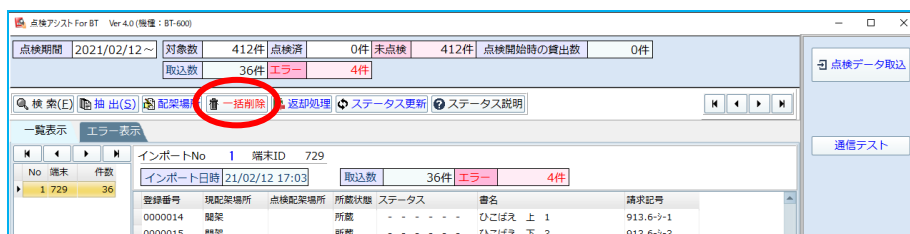
黄色い反転表示が消え、LibMax でも返却処理が実行されます。

MEMO

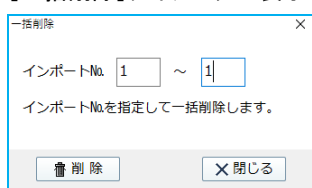
●インポートしたデータを削除するとき

指定したインポート No. の点検データを一括して削除できます。復活することはできないので、十分注意して実行してください。

(1) [一括削除] をクリックします。



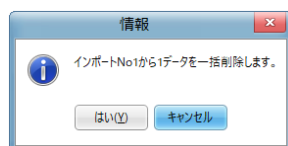
[一括削除] ダイアログが表示されます。



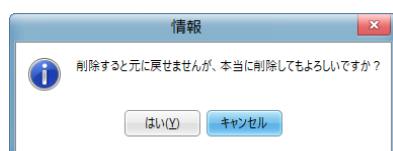
(2) [インポート No.] に、削除したい番号を入力します。

(3) [削除] ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。



(4) [はい] ボタンをクリックします。



(5) 本当に削除してもよいか、再度確認して [はい] ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを削除しました。」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

インポートしたデータがすべて削除されます。

6 ハンディターミナルのデータ削除

ハンディターミナルに読み込んだ点検データを、正しくパソコンにインポートできたことを確認したら、ハンディターミナルに保存されているデータを削除します。

配架場所を指定しながら点検作業を行っている場合は、ひとつの配架場所のデータのインポートが終わったら、必ずデータを削除してから次の配架場所の点検作業を行ってください。

！ご注意 パソコンへデータをインポートした後、ハンディターミナルのデータを削除しないと、点検データが重複して取り込まれます。必ず、データを削除してください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源を ON にします。
2. [L] (MENU) ボタンを押して、メインメニューを表示させます。
3. [3] ボタンを押して、さらに[1] ボタンを押します。
4. 「削除したデータは元に戻せません。データ削除しますか？」と表示されます。[1] ボタンを押します。
5. 「削除してよろしいですか？」と表示されます。[1] ボタンを押します。
6. 「削除しました 「確認」」と表示されます。[ENT] ボタンを押します。
7. メインメニューに戻ります。[1] ボタンを押すと、[蔵書点検]画面に戻ります。
8. データ数が「0」と表示されていることを確認してください。

7 点検作業の再開

ひとつの配架場所の点検作業が終わり、ハンディターミナルのデータを削除したら、次の配架場所の点検作業を行います。「蔵書バーコードの読み取り」→「点検データのインポート」→「ハンディターミナルの点検データの削除」を繰り返して、すべての蔵書の点検作業を行います。

8 LibMax データのバックアップ

点検作業をすべて終えたら、次に LibMax で蔵書点検を実行します。

LibMax で蔵書点検を実行する前に、必ず LibMax データのバックアップを行ってください。

バックアップの手順は、LibMax のマニュアルをお読みください。

9 LibMax で蔵書点検を実行する

ハンディターミナルからインポートした点検データは、LibMax のデータベースに保存されています。



LibMax で蔵書点検を実行するときには、データベースに保存されている点検データを指定してください。詳しくは、LibMax のマニュアルをお読みください。

3 蔵書点検方法「LibMax2016 以前をお使いの場合」

蔵書点検作業を行う前に、蔵書バーコードの読み取りテストと、正しくパソコンと通信できるかをテストします。

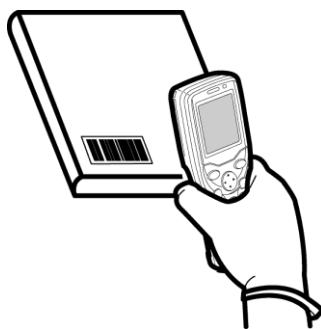
！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。



1 蔵書バーコードを読み取る

操作

1. ハンディターミナルの[PW]ボタンを押し、電源を ON にします。
ハンディターミナルの液晶画面に、[蔵書点検]画面が表示されます。
2. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、蔵書バーコードにあて、レーザー照射ボタンを押します。
ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあけ、赤いレーザーがバーコード部分にあたるようにします。



バーコードが正常に読み込まれると、緑色のランプが点灯し、「ピッ」と音がします。また、データ件数が 1 件増えます。

読み取りに失敗した場合は、赤色のランプが点灯し、「ビーッ」と音がします。「読み取れませんでした。」と表示されるので、もう一度、読み込んでみてください。

MEMO

バーコードの印刷状態などが原因で、読み取りができない場合は、ハンディターミナルの数字キーから直接図書登録番号を入力することができます。



ENT [エンター] キー

- (1) バーコードラベルの登録番号を、数字ボタンで入力します。
液晶画面の[登録番号]の次の行に、入力した番号が表示されます。
入力し直す場合は、[C]ボタンを押すと、直前の数字を削除できます。
- (2) 正しい登録番号を入力したら、[ENT]ボタンを押します。
「プツ」と音がして、登録されます。

2 通信テストを行う

操作

[点検アシスト]を起動します。
[スタート]メニューから[すべてのプログラム]→[ソフテック図書館システム]
→[点検アシスト For BT600]または[点検アシストクラウド]を選択します。
[点検アシスト]が起動します。

◆LibMax クラウドをお使いのお客様

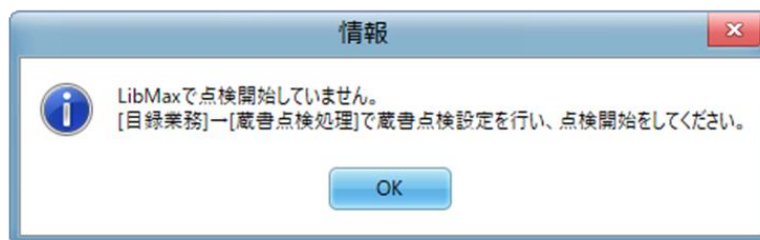
ログイン画面が表示されるので、ユーザー名とパスワードを入力して
[ログイン]をクリックします。

※[ユーザー名]、[パスワード]は LibMax
操作マニュアルに同封されている
「ソフトウェア使用許諾契約証書」に
記載されています。

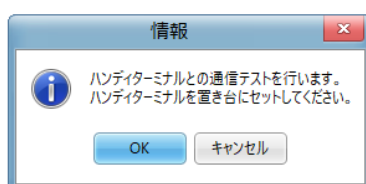
1.

操作

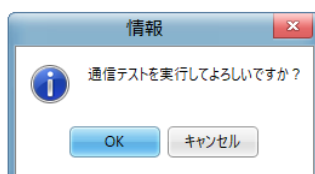
LibMax2014～2016 をお使いのお客様で、LibMax の蔵書点検処理の[点検開始]を行っていない場合は下記のメッセージが表示されます。OK をクリックして進んでください。



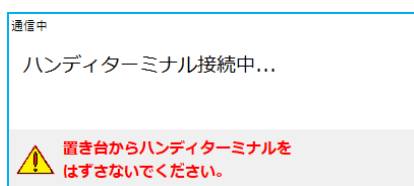
2. 画面左下に表示されている[通信テスト]ボタンをクリックします。
点検アシストで、次のメッセージが表示されます。



3. 置き台にハンディターミナルをセットします。
正しくセットすると、動作確認 LED が点灯します。確認してください。また、念のために次のことを確認します。
①パソコンと置き台が、ケーブルで正しく接続されていますか？
②ハンディターミナルの電源が入っていますか？
4. [OK]ボタンをクリックします。



5. [OK]ボタンをクリックします。
点検アシストでは次の画面が表示されます。



また、ハンディターミナルの液晶画面には、「WAKEUP 通信中 C キー: 中断」と表示されます。

6. 点検アシストで「通信テストが正常に完了しました。」と表示されたら、テストは完了です。[OK]ボタンをクリックしてください。

MEMO

エラーが発生した場合

●「ハンディターミナルの状態を確認してください」と表示されるとき

下記のことを確認してください。

① パソコンと置き台が正しく接続されていますか？

② 置き台と AC アダプタは正しく接続されていますか？

また、電源プラグはコンセントに差し込まれていますか？

③ ハンディターミナルの読み取りレーザーが照射されていませんか？

何かバーコードを読み取るか、しばらく待って、読み取りレーザーが消えてから、もう一度通信テストを行ってください。

3 点検データの初期化

通信テストが終了したら、テストに使用したデータを消去します。

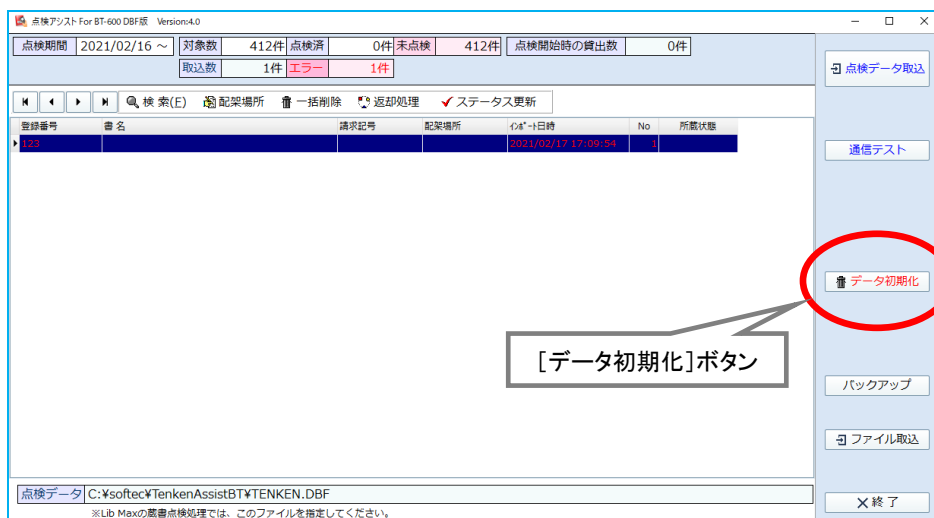
■点検アシスト

点検アシストに、前回点検時の点検データが残っていると、今回点検する点検データと混在してしまいます。このようなことがないように、本番の点検作業前に、データを消去しておきます。

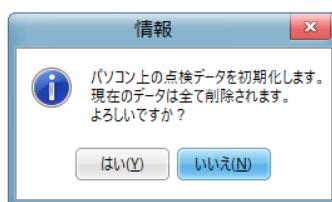
なお、データを初期化すると、復元はできません。誤って実行しないように注意してください。

操作

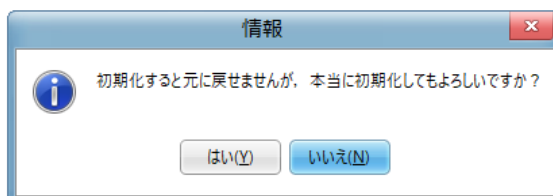
1. 点検アシストを起動します。



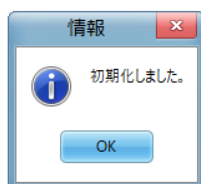
2. [データ初期化]ボタンをクリックします。
削除確認のメッセージが表示されます。



3. [はい]ボタンをクリックします。



4. 削除してもよいか確認し、[はい]ボタンをクリックします。



5. [OK]ボタンをクリックします。
初期化が完了します。

■ハンディターミナル

ハンディターミナルに残っている点検データを削除し、何も読み取っていない状態に戻します。なお、削除した点検データは復元できません。誤って削除しないように注意してください。

操作

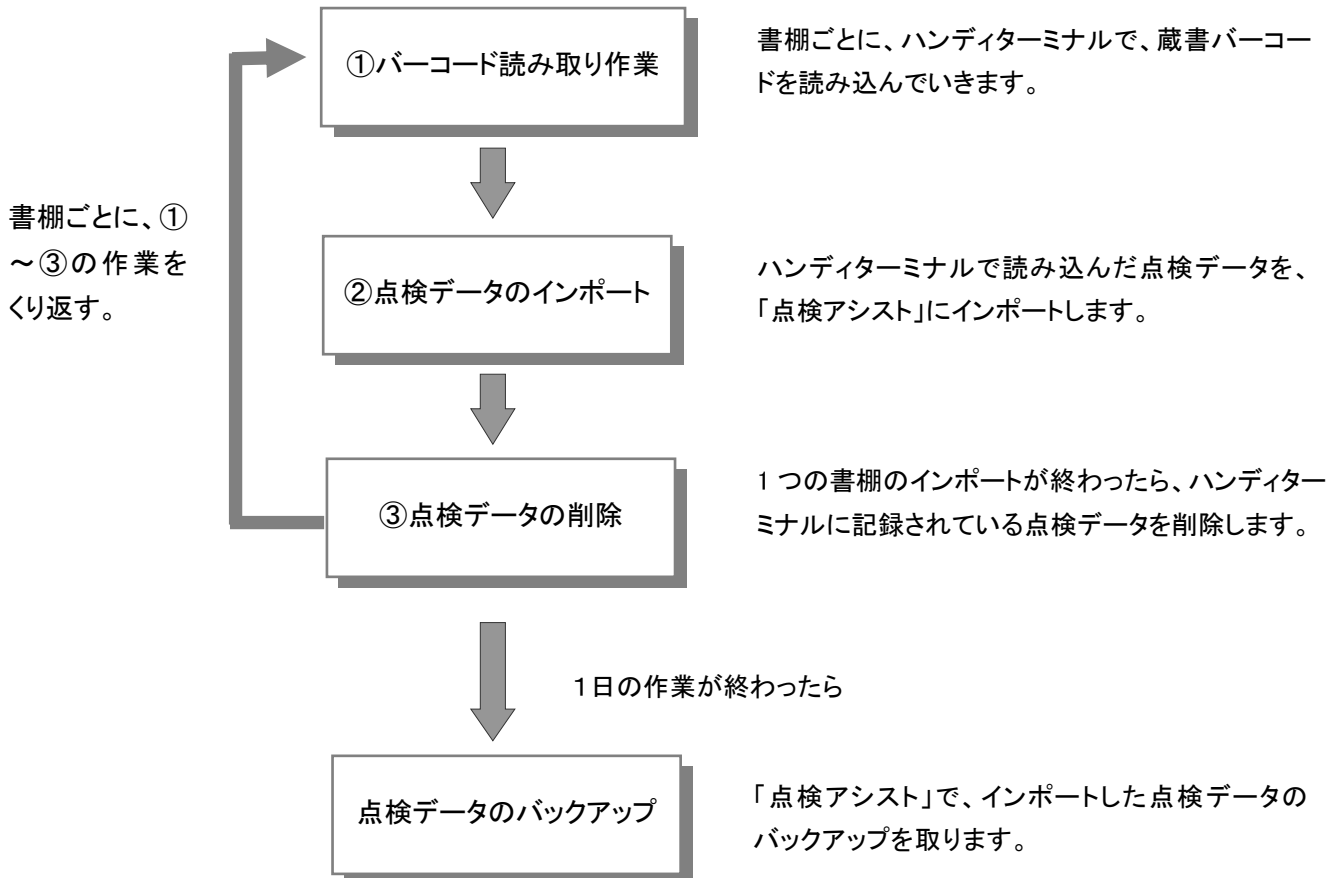
1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源を ON にします。
2. [L] (MENU) ボタンを押して、液晶画面にメインメニューを表示させます。
3. [3] ボタンを押して「3: 削除」を選択します。
4. [1] ボタンを押して「1: 蔵書点検データ」を選択します。
5. 「削除したデータは元に戻せません。データ削除しますか？」と表示されます。[1] ボタンを押して「1: YES」を選択します。
6. 「削除してよろしいですか？」と表示されます。[1] ボタンを押して「1: YES」を選択します。
7. 「削除しました 「確認」」と表示されます。[ENT] ボタンを押します。
8. メインメニューに戻ります。[1] ボタンを押して「1: 蔵書点検」を選択すると、[蔵書点検]画面に戻ります。
データ数が「0」と表示されていることを確認してください。

4 ハンディターミナルを使用した、蔵書点検作業の流れ

！ご注意 LibMax2014～2016 をお使いのお客様は、LibMax で蔵書点検の点検開始を行ってください。

バーコードの読み取りと通信テストが正しく行われたことを確認し、データの初期化が終了したら、蔵書点検の作業を開始できます。

蔵書点検の作業の流れは、次のようになります。



！ご注意 蔵書点検を開始してからは、点検アシストの初期化は行わないでください。

MEMO 一度にすべての蔵書データを取り込むことができますが、「ハンディターミナルでの読取作業」→「点検データのインポート」→「ハンディターミナルのデータ削除」のサイクルを決めて（たとえば一日ごと、半日ごと）、数回に分けて作業を繰り返すことをお勧めします。一日の作業の終わりに、点検データのバックアップを行ってください。

5 蔵書点検作業の開始

ハンディターミナルを使用した蔵書点検では、配架場所を指定しない方法と指定する方法があります。

■配架場所を指定しない場合

蔵書点検時には配架場所の変更は行わず、蔵書の有無の確認のみ行います。

■配架場所を指定する場合

ハンディターミナルを使用した蔵書点検では、LibMax の配架場所を一括して更新する機能があります。下記の場合などは、配架場所を指定しながら蔵書点検を行うと便利です。

- ① LibMax を導入後、初めて蔵書点検を行う
- ② 配架場所を入力していない図書データが多数ある
- ③ 配置換えや除籍などで、異動した図書が多数ある
- ④ 実際の図書の場所と、LibMax 上の配架場所が一致しない

！ご注意

- 管理したい場所が、LibMax の[配架場所マスタ]に登録されているか確認してください。
- ハンディターミナルでの読み込み作業は、配架場所ごとに行います。
- インポートは配架場所ごとに行ってください。複数の配架場所のデータが混在しないようにします。

なお、どちらの場合も、蔵書点検を始める前に、ハンディターミナルと点検アシストで、初期化作業を行ってください。

LibMax クラウドをお使いのお客様のみ設定をお願いします

[点検アシスト]の[取込設定]ボタンをクリックします。



条件指定用のダイアログに切り替わります。各項目を設定します。

取込設定

桁設定

始桁 1

桁数 8

取込分割件数

3000 件

保存 閉じる

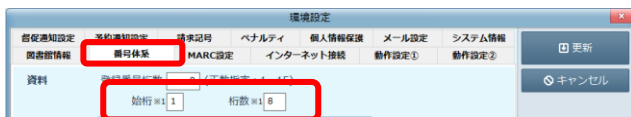
・桁設定

LibMax の設定に合わせて[始桁]と[桁数]を入力して[保存]ボタンをクリックします。

・取込分割件数

初回設定は 3000 件で取込してください。
インターネットの回線速度によりデータ転送が失敗する場合は 2500 件以下で取込してください。

※LibMax の設定は[設定]メニュー[環境設定／ユーザー情報]の[番号体系]から確認できます。



■ハンディターミナルの読み込み作業

！ご注意 ハンディターミナルをお使いの際は、必ずストラップを手首にかけて、落下しないようにお持ちください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW] ボタンを押して電源を ON にします。
液晶画面に、[蔵書点検] 画面が表示されます。
2. ハンディターミナルのバーコード読み取り部を、蔵書バーコードにあて、レーザー照射ボタンを押します。
ハンディターミナルとバーコードラベルの間隔をあげ、赤いレーザーがバーコード部分にあたるようにします。
3. 蔵書点検を行う図書の蔵書バーコードを、すべて読み取ります。

MEMO

途中で読み取り作業を中断するときは、そのままハンディターミナルの電源を OFF にします。読み取ったデータはハンディターミナルに保存されています。

読み取り作業を再開する場合は、再び電源を ON にして、読み取り作業を開始します。

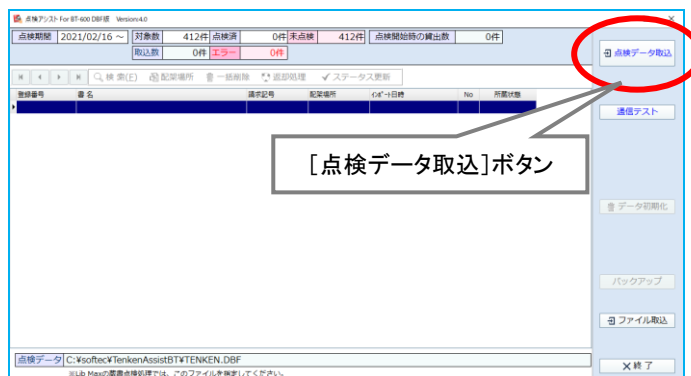
ハンディターミナルは、登録番号が 10 桁の場合、1 台で約 60 万冊分のデータを保存することができます。

■点検データのインポート

ハンディターミナルで読み取った点検データを、点検アシストにインポートします。点検データは、蔵書点検結果ファイル「TENKEN.DBF」という名前でインポートされます。

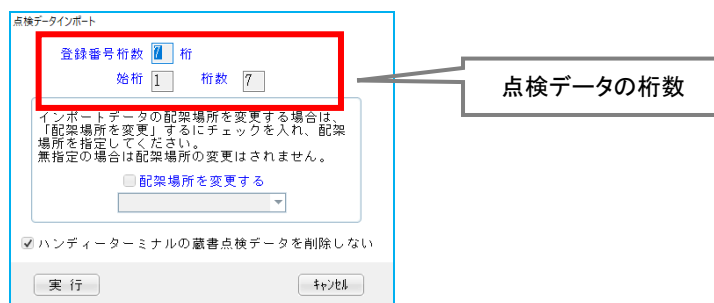
操作

1. ハンディターミナルの電源を ON にし、パソコンに接続されている置き台にセットします。
2. パソコンで、点検アシストを起動します。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [ソフテック図書システム] → [点検アシスト For BT600] または [点検アシストクラウド] の順に選択すると、起動できます。

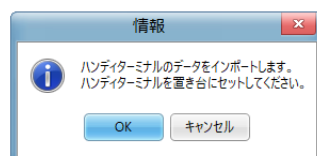


操作

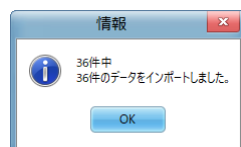
3. [インポート] ボタンをクリックします。
[点検データインポート] ダイアログが表示されます。



4. 点検データの桁数を確認します。
[登録番号桁数] : LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
[始桁] : LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
[桁数] : LibMax で設定している桁数が表示されます。変更はできません。
5. 配架場所を指定する場合は、[配架場所を変更する] をチェックし、リストから配架場所を指定します。
※リストに表示される配架場所は、LibMax の配架場所マスタで登録したものです。
※配架場所を指定しない場合は、チェックを外したままにしておきます。
6. 点検データのインポート後も、ハンディターミナルの点検データを残しておく場合は、[ハンディターミナルの蔵書点検データを削除しない] をチェックします。チェックを外すと、点検データのインポート時に点検データが削除されます。
※点検データは後で削除できます。操作方法は「ハンディターミナルのデータ削除」〈P.45〉を参照してください。
7. 必要な設定が終了したら、[実行] ボタンをクリックします。



8. ハンディターミナルが置き台に正しくセットされているか、もう一度確認して、[OK] ボタンをクリックします。
インポートが開始されます。
9. インポートが正常に終了すると、下記のメッセージが表示されます。



※インポートされたデータの件数を確認してください。

10. [OK] ボタンをクリックします。

操作

11. [点検アシスト]画面で、インポートされた点検データを確認します。

登録番号	書名	請求記号	配架場所	点検日時	No	所蔵状態
00000001	ハリネズミは月を昇上げる	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000002	蜜柑	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000003	新聞リポート	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000004	新行燈	913.6-1		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000005	蜜蜂と道書 上	913.6-1-1		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000006	蜜蜂と道書 下	913.6-1-3		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000007	檸檬	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000008	寄席	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000009	マンボウ最後の名捕獲	913.6-4		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000010	香蜂草屋 炎屋	913.6-4		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000011	武蔵野	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000012	蟹工船 一九二八・三・一五	913.6-3		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000013	城の峰にて、小僧の降魔	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000014	ひこばえ 上	913.6-9-1		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000015	ひこばえ 下	913.6-9-3		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000016	燃えよ剣	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000018	わたしたちは風のフォークと雲を手にして	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出
00000019	忘れメロス : 大活字本	913.6-9		2021/02/16 18:28:46	1	1 借出

■件数表示(LibMax2013 以前をお使いのお客様)

〔蔵書数〕 : LibMax に登録されている除籍を除いた図書の数です。

〔貸出中〕 : 現在貸し出しされている図書の数です。

〔点検数〕 : インポートされたデータの総合計です。

〔エラー〕 : LibMax に登録されていない(図書データとして登録されていない)数です。

■件数表示(LibMax2014～2016 をお使いのお客様)

〔点検期間〕 : LibMax で指定した点検期間が表示されます。

〔対象数〕 : 蔵書点検処理の対象になっている図書の数。

〔点検済〕 : 点検データを取り込んだ図書の数と貸出中の数の合計です。

〔未点検〕 : 点検対象のうち点検済になっていない図書の数です。

〔点検開始時の貸出数〕 : LibMax で点検開始をしたときの貸出中の数です。

〔取込数〕 : インポートされたデータの総合計です。

〔エラー〕 : LibMax に登録されていない(図書データとして登録されていない)数です。

■No

インポート作業をするごとに、インポートの番号が付きます。

■図書データ

黄色く反転しているデータは、LibMax で貸し出し中になっている登録番号です。返却処理を行う場合は、「黄色く反転している点検データを LibMax で返却処理するとき」<P.43>を参照してください。

赤く反転しているデータは、LibMax に登録されていない(図書データとして登録されていない)登録番号です。

MEMO

●点検データを検索する

インポートした点検データを、登録番号で検索することができます。また、エラーレコードを指定して検索することも可能です。

(1) [検索]をクリックします。

The screenshot shows the main application window with a search button circled in red. The window title is '点検アシスト For BT-600 DBF版 Version4.0'. The top bar contains fields for '点検期間' (2021/02/16 ~), '対象数' (412件), '点検済' (0件), '未点検' (412件), '点検開始時の貸出数' (0件), '取込数' (27件), and 'エラー' (2件). Below the top bar is a menu bar with 'M', 'F', 'D', 'S', 'E', 'A', 'R', 'C', 'H', 'I', 'N', 'G', 'I', 'T', 'E', 'M', 'S', 'M', 'E', 'N', 'U'. The main area contains a table with columns: '登録番号', '書名', '請求記号', '配架場所', 'OAS-1日時', 'No', '所蔵状態'. The table has 5 rows of data.



[検索]ダイアログが表示されます。

The screenshot shows the search dialog box with a title bar '検索' and a close button 'X'. It contains two radio buttons: '登録番号' (selected) and 'エラーレコード'. Below them is a text field for '登録番号'. At the bottom are three buttons: '検索', '既定検索', and '閉じる'.

(2) [検索項目]の設定を行います。

登録番号：登録番号で点検データを検索します。[登録番号]入力欄に、検索する登録番号を入力してください。

エラーレコード：エラーが発生している点検データを検索します。

(3) [検索]ボタンをクリックします。

条件に該当するデータにカーソルが移動します。

MEMO

●インポートの際、配架場所の指定を間違えた場合

配架場所を間違えたインポート No を指定して、配架場所を指定し直します。

(1) [配架場所]をクリックします。

The screenshot shows the main application window with the '配架場所' button circled in red. The window title is '点検アシスト For BT-600 DBF版 Version4.0'. The top bar contains fields for '点検期間' (2021/02/16 ~), '対象数' (412件), '点検済' (0件), '未点検' (412件), '点検開始時の貸出数' (0件), '取込数' (27件), and 'エラー' (2件). Below the top bar is a menu bar with 'M', 'F', 'D', 'S', 'E', 'A', 'R', 'C', 'H', 'I', 'N', 'G', 'I', 'T', 'E', 'M', 'S', 'M', 'E', 'N', 'U'. The main area contains a table with columns: '登録番号', '書名', '請求記号', '配架場所', 'OAS-1日時', 'No', '所蔵状態'. The table has 5 rows of data.



[配架場所一括変更]ダイアログが表示されます。

The screenshot shows the '配架場所一括変更' dialog box with a title bar '配架場所一括変更' and a close button 'X'. It contains a text field for 'インポートNo.' with the value '1'. Below it is a dropdown menu for '配架場所' with '閉架' selected. At the bottom are two buttons: '変更' and '閉じる'.

(2) [インポート No.]に、配架場所の指定を間違えた番号を入力します。

[配架場所]のリストから、変更先の配架場所を選択します。

(3) [変更]ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

The screenshot shows a confirmation message dialog box with a title bar '情報' and a close button 'X'. It contains an information icon and the text 'インポートNo1のデータの、配架場所を一括「閉架」に変更します。'. At the bottom are two buttons: 'はい(Y)' and 'いいえ(N)'.

[はい]ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを変更しました。」と表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。指定したインポ

ート No の配架場所が変更されます。

MEMO

●黄色く反転している点検データを LibMax で返却処理するとき

(1) [返却処理] をクリックします。

点検アシスト For BT-600 DBF 版 Version:4.0

点検期間	2021/02/16 ~	対象数	412件	点検済	0件	未点検	412件	点検開始時の貸出数	0件
取込数	27件	エラー	2件						

検索(E) 配架場所 一括削除 返却処理 (circled in red) ステータス更新

登録番号	書名	請求記号	配架場所	心A*→日時	No	所蔵状態
000				2021/02/16 18:28:46	1	
0000001	ハリネズミは月を昇上げる	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000002	蜜柑	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000003	旅猫リポート	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000004	歌行燈	913.6-イ		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000005	蜜柑と道楽	913.6-1-1		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵



[返却処理] ダイアログが表示されます。

返却処理

インポートNo 1 ~ 1

返却日 2021/02/16

LibMaxで未返却となっているデータがインポートデータの中にある場合は、返却処理されます。

※ 貸出日が指定した返却日と同日のデータは、返却処理されません。

返却 閉じる

(2) [インポート No]に、返却処理をするデータの番号を入力します。

[返却日]に、返却処理を行う日付を入力します。

(3) [返却] ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

情報

インポートNo1~1のデータの返却処理を行います。

はい(Y) いいえ(N)

[はい] ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを返却しました。」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

黄色い反転表示が消え、LibMax でも返却処理が実行されます。

6 インポートしたデータのバックアップ

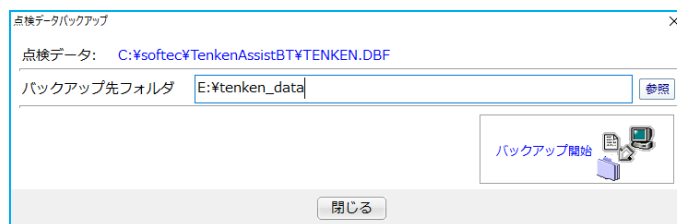
インポートした後は、万が一に備えて、USB フラッシュメモリなどにバックアップしておきます。

操作

1. MO ディスクなどリムーバブルメディアにバックアップするときは、メディアをセットします。
2. [バックアップ] ボタンをクリックします。



[点検データバックアップ] ダイアログが表示されます。



3. [バックアップ先フォルダ] に、バックアップ先のドライブ番号やフォルダ名を指定します。
4. [バックアップ開始] ボタンをクリックします。
バックアップが始まります。
5. 「バックアップが正常に完了しました。」と表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。
[点検データバックアップ] ダイアログに戻ります。
6. [閉じる] ボタンをクリックして、[点検データバックアップ] ダイアログを閉じます。

MEMO

●インポートしたデータを削除するとき

指定したインポート No の点検データを一括して削除できます。復活することはできないので、十分注意して実行してください。

(1) [一括削除] をクリックします。

点検アシスト For BT-600 DBF版 Version4.0

点検期間 2021/02/16 ~ 対象数 412件 点検済 0件 未点検 412件 点検開始時の貸出数 0件

取込数 27件 エラー 2件

検索(E) 配架場所 一括削除 返却処理 ステータス更新

登録番号	書名	請求記号	配架場所	入手日時	No	所蔵状態
000				2021/02/16 18:28:46	1	
0000001	ハリネズミは月を上げる	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000002	蜜柑	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000003	旅猫リポート	913.6-7		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000004	歌行燈	913.6-イ		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵
0000005	蜜蜂と蜂蜜	913.6-イ		2021/02/16 18:28:46	1	所蔵



[一括削除] ダイアログが表示されます。

一括削除

インポート No.

インポート No. を指定して一括削除します。

削除 閉じる

(2) [インポート No.] に、削除したい番号を入力します。

(3) [削除] ボタンをクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

情報

インポートNo1のデータを一括削除します。

はい いいえ

(4) [はい] ボタンをクリックします。

情報

削除すると元に戻せませんが、本当に削除してもよろしいですか？

はい いいえ

(5) 本当に削除してもよいか、再度確認して [はい] ボタンをクリックします。

「〇〇件のデータを削除しました。」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

インポートしたデータがすべて削除されます。

7 ハンディターミナルのデータ削除

ハンディターミナルに読み込んだ点検データを、正しくパソコンにインポートできたことを確認したら、ハンディターミナルに保存されているデータを削除します。

配架場所を指定しながら点検作業を行っている場合は、ひとつの配架場所のデータのインポートが終わったら、必ずデータを削除してから次の配架場所の点検作業を行ってください。

！ ご注意 パソコンへデータをインポートした後、ハンディターミナルのデータを削除しないと、点検データが重複して取り込まれます。必ず、データを削除してください。

操作

1. ハンディターミナルの電源が入っていないときは、[PW]ボタンを押して電源を ON にします。
2. [L] (MENU) ボタンを押して、メインメニューを表示させます。
3. [3] ボタンを押して、さらに[1]ボタンを押します。
4. 「削除したデータは元に戻せません。データ削除しますか？」と表示されます。
[1]ボタンを押します。
5. 「削除してよろしいですか？」と表示されます。[1]ボタンを押します。
6. 「削除しました「確認」」と表示されます。[ENT]ボタンを押します。
7. メインメニューに戻ります。[1]ボタンを押すと、[蔵書点検]画面に戻ります。
8. データ数が「0」と表示されていることを確認してください。

8 点検作業の再開

ひとつの配架場所の点検作業が終わり、ハンディターミナルのデータを削除したら、次の配架場所の点検作業を行います。「蔵書バーコードの読み取り」→「点検データのインポート」→「ハンディターミナルの点検データの削除」を繰り返して、すべての蔵書の点検作業を行います。1日の作業の終わりなど、点検作業の区切りがついたら、点検データのバックアップを行います。

9 LibMax データのバックアップ

点検作業をすべて終えたら、次に LibMax で蔵書点検を実行します。

LibMax で蔵書点検を実行する前に、必ず LibMax データのバックアップを行ってください。バックアップの手順は、LibMax のマニュアルをお読みください。

10 LibMax で蔵書点検を実行する

ハンディターミナルからインポートした点検データは、点検アシストをインストールしたフォルダに、「TENKEN.DBF」として保存されています。
保存場所は、[点検アシスト]画面の[点検データ]にも表示されています。



LibMax で蔵書点検を実行するときには、このフォルダの中にある「TENKEN.DBF」を指定してください。詳しくは、LibMax のマニュアルをお読みください。

4 付録

1 ハンディターミナル仕様

■KEYENCE BT-600 の仕様

内部記憶部	RAM 容量	16MB (内ユーザエリア 8MB) (登録番号が 10 桁で約 60 万冊分)
	Flash ROM 容量	16MB (内ユーザエリア 10MB)
電源部	主電池	専用リチウムイオンバッテリーパック 連続使用時間: 約 65 時間※1 充電時間: 約 3 時間
	副電池	内蔵リチウム二次電池 バックアップ時間: 約 25 分
読み込み可能バーコード		CODE39、NW7、ITF、インダストリアル 2of5、 COOP2of5、CODE128、GS1-128 (EAN-128)、 CODE93

※1 常温、動作確認用 LED、パイブレーション機能 OFF、ブザーON (音量 小)、バックライト ON (低輝度)、10 秒間に 2 回バーコード読み取りを行った場合の連続使用時間です。

2 サポートのご案内

■お問い合わせ

電話・FAX・メールにて受付けております。

TEL: 011-669-6200 FAX: 011-669-3002 E-Mail: support@softclib.co.jp

受付時間／10:00～12:00 13:00～17:00(土、日、祝祭日を除く)

曜日、時間帯により電話が繋がりにくい場合がございます。あらかじめご了承ください。

■ソフテック・ホームページ

ユーザーコーナーにて LibMax に関する情報確認の他、アップデートプログラムのダウンロードなどを行うことができます。ぜひご利用ください。

(ユーザーコーナーのご利用には ID、パスワードが必要です。お客様の ID、パスワードは使用許諾契約書に記載されております。)

<http://www.libmax.com/>



〒063-0823 札幌市西区発寒 3 条 6 丁目 10-25

発寒 3・6 ビル 3F